

# お お ぞ ら

No.7 (124)

社会福祉法人 聖隷福祉事業団  
総合病院 聖隷三方原病院  
聖隷おおぞら療育センター

〒431-1304  
浜松市北区細江町中川 7448  
TEL 053-437-1467

発行責任者 荻野和功  
編集者 横地健治

2008年1月20日

## 活動報告会

所長 横地 健治

昨年、暮れのクリスマスの日、午後、聖隷おおぞら療育センター入所部門の活動報告会が行われました。入所者が日々どんな生活を送っているかを知ってもらおうことを目的として行います。前年から始めて二回目となり、その形は定着して来ています。日々繰り返される生活の具体的中身が、生活の質(QOL)として最も重要であり、職員はこれを意識して報告しています。ご家族に注文があれば、そこで述べてもらいたいと思っております。

家族が入所者の生活に触れるのは、行事のような特別な日の場面が多くなりがちです。ここでは、入所者が普段どんな生活を送っているかわかりにくくなっています。行事や外出のような特別な日の意味は、健常者と重症心身障害児(者)では意味が違っていると思います。健常者では、日々の生活の価値を低く見がちです。それは、自分だけでは簡単には変更できないという事情もあるからです。これに

対し、休日に行ったことには高い価値が付けられます。休みの日に好きなことができれば、日々辛くても耐えられるといった具合です。しかし、こうした論理を重症心身障害児(者)に当てはめてはいけません。健常者では、後日得る満足のため、今不利益をこうむることは納得できませんが、この関係が理解できない人(重症心身障害があれば、まず理解できない)には、ただ苦痛を強いているだけです。重症心身障害児(者)にとって意義ある生活行為は、その日のその場で良い結果の出せるものでなければならぬと思います。今日の段階では未完成で価値はないが、明日からの作業を加えて完成され、そこで初めて価値を持つようなものは不適切です。また、昨日の結果を覚えていることを前提とした生活行為は、重症心身障害児(者)には安易に適用できません。よって、健常者の感覚からすれば、単純なことを繰り返していると見えたとしても、重症心身障害

児(者)にとってはおかしなことではありません。ただし、時が経てば、重症心身障害児(者)でも繰り返すことによる学習や慣れといった変化は出てくるはずですが(健常者よりはかなり遅いでしょうが)。繰り返す課題は、一定時期が過ぎたら、必ず見直さなければなりません。

重症心身障害児(者)にとって、その場で良い結果が出せる行為とは何かが大問題です。当然、健常者と同じにはなりません。知的発達段階が同等とみなされる健常小児(これには、かなり無理があります)が)とも同じにはなりません。年長となった重症心身障害児(者)には、乳幼児とは違う精神世界があるはずで、重症心身障害があると、呼吸すること、食べること、排泄、眠ること、また、姿勢を保持するという一番基本的な生活行為に専門性を要する多大な介助量を要します。しかし、こうして体調が良い状態で維持された上で営まれる前述の生活行為こそが最も重要です。こうした営みを、私たちは「活動」と総称しています。

その人の障害像・個性・生活歴を総合して、その人にとって最良の活動内容を立案します。そのためには、以下の三

点を原則としています。まず、それが快または満足感・達成感の得られるものでなければなりません。単純な快より、後者の「やった」という充実感が表出されるものの方がより価値が高いと考えます。次は、能動性があるべきだと思います。受け身だけでは価値は低いということです。心地よい感覚を受け取るだけでは不十分で、自分から働きかける面を持つべきです。三番目は、創造性があるべきだということです。その人の新しい面が発見できるということです。

こうした活動が、健常者の価値観からは、くだらない、退屈、馬鹿げていると非難されるような内容にみえる可能性は十分あります。しかし、この三原則をすべて満たしていれば、それは最高の活動だと思います。活動報告会で、一見たわいがないように見えても、堂々とこうした活動を報告している職員がいたら、その職員こそ、その人を深く理解して活動を立案・実践しているのだと思ってもらいたいと思います。入所者の日々の活動を設計していくということはその人の人生を決定していくような重さがあります。困難な課題ですが、私たちの務めと認識しています。

家庭に、趣味に、仕事に  
と節目の年をそれぞれの  
思いで迎えた「年女」の  
皆さんの抱負です。

## 幸せな時間

町 英津子

ここ数年、私が初詣で願  
いすることは決まっています。  
「私たちが家族が、そして私た  
ちをとりまく人たちが健康で  
幸せに過ごせますように。」  
とりわけ我が子の健康は一  
番の願いごとです。子どもが  
生まれて、私の生活は子ども  
第一に一変しました。(これ  
は子を持つ親、特に母親には  
共通のものでしょうが：)

一歳八ヶ月を過ぎた息子は、  
意思表示が強くなり、イヤな  
ことは首を振ったり、泣いた  
り：。抱っこしてとせがみ大  
泣きされるとこちらの方が泣  
きたくなることも多々ありま  
す。うまく接することができ  
ず、「このままじゃ私のこと  
嫌いになるかもしれないな」  
と落ち込みマイナス志向にな  
ることもあります。息子は  
「抱っこして」とこちらの不  
安をぬぐうように要求してく  
ます。「嫌いにならないでく  
れてありがとう」と心の中で

つぶやいてしまいます。

こんな私の性格と反対の、  
物事は前向きに、そして楽し  
くと考える主人は、抱っこを  
せがまれてはいる私を見て「い  
いね、愛されてるね」と  
冗談っぽく言って笑っています。  
「何でこんなに抱っこ抱っ  
こなんだろう」とぼやいてし  
まう私に「子どもはみんなそ  
うなんじゃない？子どもらし  
くていいよ。」と言います。  
口では何とでも言える：とつ  
い思ってしまうのですが、確  
かに今私は、息子からとても  
必要とされています。この経  
験は貴重で、とても幸せなも  
のだと感じています。大変だ  
と感じることも多いけれど、  
家族との時間はとても幸せな  
ものであり、私のパワーです。  
今年も、この幸せな時間を  
もっともっと楽しんで過ごし  
ていきたいと感じています。  
(あさひ生活支援員)

## My チャレンジ

柴田 奈知

新しい一年が始まり、この  
一年をどのように過ごしてい  
こうかと考えたところ、正直  
最初は何も思いつきませんで  
した。なぜなら、私は今まで、  
年の初めに一年の目標を自分

自身で立てたことが無かった  
からです。今まであまり自分  
主導で生活してこなかったた  
めか、自分のしたいことが分  
からなくなっていたのかもし  
れませんが。しかし、学生の頃  
を思い出すと、社会に出て、  
自分の時間がつくれるように  
なってからやろう!と思っ  
たことがあったような気が  
します。学生の頃は自分の時  
間が思うように作れず、働き  
始めてからも初めての仕事で  
他のことに意識がいかなか  
ったため、やりたいことがあ  
ったことすら忘れてしまっ  
ていました。そのため、自分が何  
をしたかったのかあまり思い  
出せません。

今年も、働き始めてから三  
年目に入り、少しずつ仕事と、  
仕事以外の時間を有効に使え  
るようになるような気がしま  
す。そのため、今年も、仕事  
はもちろんのこと、仕事以外  
の事もしっかりと考えて生活  
していこうと思っています。  
目標を立てるのはあまり好き  
ではないため、生活していく  
中で、その時々を感じ、やり  
たいと思ったことに精一杯取  
り組み、自分が納得するまで  
後悔の無いようにしていきたい  
です。

仕事でも、毎日の生活に流  
されることなく、日々のケア

をしつかりしていきたいと思  
います。今まで、ケアをする  
ことに精一杯で、知識が十分  
に伴っていないことが多いた  
め、自分に足りないと思った  
知識は、どんな小さな事でも  
自分が納得できるように学習  
して、毎日のケアに活かして  
いきたいと考えています。  
今年も、仕事も、仕事以外  
のことも、毎日を充実した日々  
にし、そして、一年が終わる  
ときに、自分が少しでも成長  
できたと感じられるような年  
にしていきたいです。  
(あすか看護師)

## 花を学ぶ

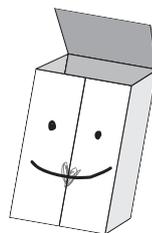
原めぐみ

二〇〇八年、私がチャレン  
ジしたいと思っていることは、  
「花を学ぶ」ということです。  
私は、二年前、「ブリーダー  
ブドフラワー」と出会いまし  
た。「ブリーダーブドフラワー」  
とは、フレッシュな植物に、  
人体に無害な保湿するための  
液や色素を吸わせて作る花で  
す。生花のような風合い、し  
なやかさ、みずみずしさがあ  
り、人工的に染料を着色する  
ために、ブルーなど生花では、  
ほとんど見ることのない色の  
花もあります。また、水と与

える必要がなく、生花より長  
く楽しむことが出来るため  
「魔法の花」とも呼ばれていま  
す。その花に今ではすっかり  
魅せられています。花と向き  
合って集中してアレンジをす  
る時間は、私にとってリフレッ  
シュできる癒しの時間であり、  
感性を磨く時間でもあります。  
また、自分でアレンジした花  
をプレゼントして喜ばれると、  
とても嬉しい幸せな気持ちに  
なります。花のアレンジは、  
いつも季節やテーマを設定し  
てするのですが、私は今、あ  
るスタイルのアレンジに、と  
ても惹かれています。雑誌や  
花屋さんを見て、そのアレン  
ジを真似してはみるものの、  
なかなか思うようなアレン  
ジは出来ません。花の色合わせ  
や、グリーンや資材の使い方  
など独特のものがあ、その  
アレンジの技術の基礎をしっ  
かり身に付けたいと考えてい  
ます。仕事が忙しかったり、  
疲れていると、休日は特に何  
もせずに終わってしまうこと  
も多いのですが、今年も、ゼ  
ヒスクールに通い、花のアレ  
ンジの技術と基礎を学びたい  
と思います。そして、花を楽  
しんで、自分が思い描く素敵  
な花のアレンジが出来るよう  
になりたいと思っています。  
(あすか看護師)

# の 宝箱

## 私



### スノーボード

常盤 美帆

私が初めて雪山へ行ったのは、六年前のことです。友人に誘われ、新潟まで初めて二泊三日のスノーボード旅行へ出かけました。スノーボードは嫌いじゃないし、まあ簡単にできるだろうと、安易な考えで出発したのを今でもよく覚えています。到着すると見渡す限りの雪景色に、浜松で生まれ育ち、雪を知らない私はテンションがあがりました。着替えをし板を担ぎやる気満々でゲレンデに出ました。しかし滑ってみると、さっきまでのテンションはすぐに崩れ落ちていきました。何度立ち上がってもすぐ転ぶ。滑れたと思ったら止まれない。転んで転んで体中がすぐに悲鳴をあげました。全く体が痛いだけで何も楽しくない。私には合っていない。もう明日はやりたくないと思いました。しかし皆で来たからに

はそもいかに二日目スタート…。それでも昨日と成果はあまり変わりありません。帰り際になってようやく少しだけ滑れるようになったものの楽しいとは思えませんでしたが、その後も何故か誘われると雪山へ行き、訓練のように滑っていました。すると自分なりに少しずつコツをつかみ、滑れるようになりました。滑れるようになると楽しくなってきた、もっと上のコースを目指したり技を教えてもらったり。何年もかけて少しずつ成長していきました。今では冬の一番の楽しみがスノーボードです。今思えば私には向いていないとすぐに諦めなくて良かった。たった少し触れてみただけで判断してはもったいないということを学んだ気がします。そして少しずつでも毎年続けることでここまで出来るようになったのだと思います。私はおおぞらに就職したのもスノーボードを始めたのも今年で七年目。今までに取得してきた技や経験をフルに活用して今年も仕事にスノーボードに頑張ります。

(つらつら)



材料 4人分 (1人分 118 kcal)

- ◆ 豆乳 ..... 240cc
  - ◆ 砂糖 ..... 36g
  - ◆ 片栗粉 ..... 8g
  - ◆ 粉寒天 ..... 2g
  - ◆ 水 ..... 120cc
  - ◆ 黒みつ ..... 40g
  - ◆ 黒砂糖 ..... 80cc
- ◇ 鍋 2つ
  - ◇ プリン型
  - ◇ 木べら

- ① 鍋に豆乳と砂糖を入れて火にかけ、煮立ったら水に溶いた片栗粉を入れよく混ぜ合わせます。
  - ② 別の鍋に粉寒天と水を入れ中火にかけ、煮立ったら弱火にして寒天を完全に煮とこします。
  - ③ 火を止めて、①と②をよく混ぜ合わせます。
  - ④ プリン型に入れ冷蔵庫で冷やし固めます。
  - ⑤ 黒みつを作ります。黒砂糖に湯を少しずつ入れながらかき混ぜ、好みのかたさにしてください。
  - ⑥ 豆乳プリンを器に盛り黒みつをかけてください。
- ※黒みつの代わりにジャムをかけてもおいしいです。

### ▼作り方

とっても簡単!  
豆乳プリン



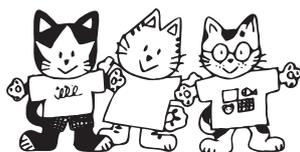
# あゆみ

## (入所)

- 11.7 はるか2名 自衛隊の広報館へ。館内では展示してある実物の飛行機を見ました。ちょうど飛行訓練をしていたので目の前で離着陸を見ることができ、音の迫力も十分に味わいました。お土産に帽子を購入してきました。だいち3名 みかん狩りに行きました。もぎたてのみかんをおいしくいただきました。みかんの皮を上手に剥く人もいれば待ちきれずに皮ごとかじってしまう人もいました。
- 11.9 うらら3名 浜名湖ガーデンパークへ。昼食をサガミで摂り、ドライブをしてからガーデンパークに到着。おしゃべり、笑顔がたくさん見られた外出でした。
- すばる2名 ショッピングセンターでウィンドウショッピングを楽しみました。バス用品の入浴剤の香り、パンの焼ける香りなど、目を丸くして嗅いでいたり、店内の飾りを興味深げに見ていました。
- 11.11 はるか2名 エコパアリーナヘディズニーオンアイスショーを見に行きました。音の迫力や様々な光の演出があり、一緒に歌ったり手拍子を打ったりして楽しみました。



- 11.19 はるか3名 岡崎市のわんわん動物園へ出かけました。園内には多くの種類の犬がおり、実際に触れるコーナーもありました。怖がることなく抱っこできました。
- 11.21 だいち2名 ガーデンパークへ遊びに行ってきました。思い思いの方向へ歩いてもらいました。風の流れに乗って方向を変えて歩いたり、前の人について歩いたりしていました。



- 11.27 うらら3名 フラワーパークへ。少し肌寒い日でしたが、温室やその他の室内にも入りながら園内を散策しました。様々な植物を見ながら、たくさん歩きました。
- 11.28 あすか2名 キラキラルーム、プラネタリウムを体験。一室をプラネタリウムのように設え、音楽を流しながらリラックスして輝きを楽しみました。
- 12.5 はるか2名 グリーンファームへ。ハーブを使って石鹸を作りました。いい香りがし、素適な石鹸ができました。

※11月から北棟は玄関、うらら、はるかにクリスマスツリーが飾られました。青、赤、緑…ときれいなライトが光っていました。

## (通所部門)

### もみの木

12月今年度の活動や生活の様子など、保護者を交えて報告する機会をも

ちました。

「家ではみることのない“笑顔”だね!」「すごい真剣だね!」「大人っぽい表情をしてる!」などは母親の感想です。保護者の皆さんの温かな受け入れの中、活動報告会を進めることができ、感謝です。クリスマス会は“フルーツとピアノ”のコンサート、楽しいリトミックで心地よい時間を過ごしました。

## ひかりの子

12.14 クリスマス会を行いました。普段の保育の様子をビデオ上映したり、サンタさんにプレゼントを貰い、楽しいひと時を過ごしました。

## (全体)

- 11.7 愛知県障害福祉関係者6名見学
- 11.13 看護師研修
- 11.20 西部養護学校関係者8名見学
- 11.21 西部養護学校関係者8名見学
- 12.11 中国第三軍医大学関係者10名見学
- 12.23 入所部門クリスマス礼拝・活動報告会

## 12.28 帰省日



	11月	12月
ショートステイ	36人 (164日)	28人 (164日)
レスパイト	26人 (59日)	21人 (56日)
ボランティア	16人 (5件)	17人 (4件)
見学実習	31人 (8件)	11人 (2件)

新年を迎えたと思ったら、あっという間に半年が経ち、あっという間に年末を迎え、また新しい年がやってきたようです。時はとどまることを知らないんだ、と痛感しております。昨年はどんな年だっただろう、と思い起こす度に自分は何だか人間として成長したんだらう、と考え込んでしまします。そんなことを毎年繰り返しながらも、特に悩み続けることなく日々を楽しんで生きている私は、なんて幸せ者だらう、と思わざるを得ません。

さて、今年は何年ですが、地球は太陽の周りを三六五日と五時間四八分四六秒で一周することです。その端数を調整するために四年に一度閏年を設けて三六五日にしているんですね。誰が計ったかは知りませんが、スケールが大きいですね。でも、愛する地球の為、私は小さくエコ活動の心がけようと考えております。毎回忘れずにマイバッグを持って買い物に行く。近くには徒歩か自転車で出掛ける。燃費の良い車に換える...。等々。

本年も宜しく願いたします。  
(K・H)

# 編集後記